

平成 25 年度 全国学力・学習状況調査等を活用した学力向上に向けた事例

事務所名	盛岡	学校名	滝沢村立一本木小学校	TEL	(019) 688-4253
------	----	-----	------------	-----	----------------

課題解決に向けた全教職員による全体指導と個への指導の工夫

1 わらい

全国学力・学習状況調査等の結果を分析して課題を明らかにし、解決するための指導方法を工夫する。

2 具体的な実践

(1) 実態について

全国学力・学習状況調査の正答率は、国語は「知識」「活用」とともに、全国・県平均を上回っているが、「知識」に比べ「活用」の正答率が低く、「書くこと」の領域の正答率がやや低い。算数は「活用」は全国・県平均を上回っているが、「知識」は全国・県平均より若干下回っている。

質問紙調査では、「算数に苦手意識を持つ子どもが多い」「テレビ・ゲームの時間が長い」「家庭学習の時間が不足している」「保護者の教育への関心がやや低い」等の実態が見られる。

(2) 実態から解決する課題について

①「基礎・基本の確かな定着」②「活用の力の育成」③「学習意欲の向上」④「家庭での生活習慣の改善」

(3) 取組の内容について

① 基礎・基本の確かな定着

ア 調査の分析と補充指導

- 平均正答率より低かった問題の抽出と誤答・無答分析、補充指導計画の作成
- 設問毎の平均正答率に到達していない児童の把握、個別の補充指導計画の作成
- 全学年での正答率が低かった問題の類似問題の作成、繰り返しの取組
- 今年度内、また、来年度以降に向けた、弱点領域の認識と授業改善のための校内研究の充実

イ 言語活動を位置付けた授業づくり

- ノートやワークシートに書きまとめる言語活動の設定
- 書きまとめたことをペア・グループ等で交流し合う言語活動の設定

ウ 確かな学習基盤づくり

- 百マス計算や補充問題への取組：チャレンジタイム（13:45～13:55）に実施、問題は教務主任が作成
- 年間7回の漢字チャレンジテスト：問題は担任が作成、2週間前に配付して家庭学習での取組
- 算数道場問題（1級～40級までの検定）：問題は担任と担任外が作成・分担して丸付け
- 本校オリジナル詩集（選集）の音読・暗唱活動：担任が指導、担任外が検定
- 放課後マイスタディ（火・金の放課後）：担任外・大学生ボランティアが補充問題や宿題の指導

② 活用の力の育成

ア 国語：「書くこと」領域の単元構成の工夫

- 一次(指導計画)→二次(共通題材で書き方を学ぶ・習得)→三次(各自の題材で書く・活用)→まとめ

イ 算数：既習内容を生かして課題解決に取り組む学習展開の工夫

③ 学習意欲の向上

ア 主体的な学習を促す学習過程（課題→見通し→課題解決・交流→振り返り）

イ 自己評価・相互評価・個人内評価を大切にした授業づくり

④ 家庭での生活習慣の改善

ア 小中連携による「家庭学習」の習慣形成（「家庭を学びの環境に」リーフレット作成と配付）

イ 小中連携による「家庭学習強化期間」の設定（年間3回・約2週間）と家庭学習時間の集計・振り返り

3 成果

- 全校体制で繰り返しの補充指導や漢字・計算練習を行うことにより、基礎的・基本的な内容の定着が図られた。
- 活用を意識した授業改善を行うことにより、学んだことを生かして主体的に学習に取り組む児童が増加した。
- 課題解決のために、ノート・ワークシートに書きまとめた内容をペア・グループ等で交流し合い、自己評価・相互評価を取り入れたり、個のよさを評価したりすることにより達成感を持ち、学習意欲の向上が見られた。
- 家庭の学習環境が向上し、目標時間（10分間×学年＋10分間）の家庭学習に取り組む児童が増加した。

<担当指導主事から>

【滝沢村教育委員会 指導主事 八重畑 旬】

・一本木小学校の参考となる点は、調査結果の詳細な分析と、課題解決のために全体指導と個への指導の両面から具体的な取組を考えているところです。また、分析から具体的な取組までを、管理職のリーダーシップのもと、主任層を中心として、職員全員で、改善・向上の意識をもち、子ども達に自信をつけさせるために取り組んでいる点が素晴らしいところです。